

ブライアン・ジーチ・ローレンツ

# ZICHI *Lorentz*



1

RESUME 履歴書



**ARTIST STATEMENT** A Journey 旅・光の舞 輝きの島

私が作品のスタイルを固定しない理由は、死ぬまで探求者でありたいからだ。人間性を広げ、人格を磨き、自身を高めゆくこと、私はこのことが芸術家として最高の作品を生み出してゆく道につながると信じている。人間性の反映が芸術・アートであり、ときどき「心」は技術を征服する。私は自身を束縛している殻を破り、自由な精神をもって満足の人生に到達したい。その生命の感動が私にとって創造する喜びとなる。永遠の旅人、終点のない Journey-旅での、光の舞い・・・私の展覧会やイベントを通して折々に、その舞を、ダンスを、あなたと共有できたらうれしい。ストレスは昨日の子どもであり、決して明日への大人になることを許してはならない。この瞬間を、そして今を生きよう。記憶とは現実の影のようなものである。芸術はパワフルな力の癒しを芸術家にも鑑賞者にももたらしてゆく。私達はアートでストレスを乗り越えることができる。癒しの過程は、私達が自身の生命を支配する瞬間に始まる。

*Art is a Journey, not a Destination*

## 舞来庵 慈智 路蓮津



Seascape Painting 海の絵画

Landscape Painting 景色の絵画

Flower Painting 花の絵画

Abstract Painting 抽象画

**1952-**

彫刻家を父に英国 リバプールに生まれる  
ノースイーストロンドン大学卒 (水 彩画 テキスタイルデザイン専攻)  
ロンドン大学ゴールドスミスカレッジより入学招請を受ける  
英国アーティスト 62グループメンバー  
英国工芸評議員会 メンバー  
大英博物館付属大 英国書館アーティスト  
アッシュャーズ社ハンドプリントシルクテキスタイルデザインコンサルタント  
(顧客英国 王室etc)

### 特別受賞 Special Award

エジンバラ公爵賞 –ブロンズ・シルバー・ゴールド3賞–  
(エリザベス女王陛下 下夫君)  
作品買い上げ  
英国にて、富士美術館 館用として作品が買い上げられる(1989)

# Flower Painting 花の絵画

## 個出展

イギリス (ピクトリア & アート パート 美術館、ハンブドンコート、マンチェスター 大学、タムローコート 他)、イタリア、フランス、カナダ、アメリカ他多数

## 出展 Exhibition

### 個展 One Man Exhibition

- 1995.05 懸珙倶楽部「寛」白馬グリーンガーデン
- 1995.06 第10回国際映画映像祭白馬大会来賓ラウンジ  
白馬オリンピック村
- 1995.06 長野県大町市 ギャラリーろっく亭
- 1995.07 長野県美麻村 ぼかぼかランド
- 1995.07 長野中央郵便局ギャラリー
- 1995.08 東京銀座 ステップスギャラリー
- 1995.11 新潟県 ホテル「マイパラダイス」(企画展)
- 1996.02 ギャラリー82 長野市
- 1997.07 長野市 平安堂(企画展)
- 1997.08 東部町 ウィナパーク(企画展)
- 1998.06 英国祭'98~British Festival UK'98~ 公式イベント  
として1年間の展覧会 信州新町美術館、朝陽館ギャラリー、道の駅中条、平安堂新長野店、長野中央郵便局ギャラリー
- 1999 インターネットギャラリー "Alpine Arts Atelier"
- 2000.08 小布施町 A. L a . O b u s e
- 2001.09 長野市 ギャラリー はせがわ
- 2003.06 Gallery 北野坂 Kitanozaka Gallery Kobe City
- 2003.11 Rhine House Gallery Kitano Ijinkan Kobe City
- 2003.12 Rhine House Gallery Kitano Ijinkan Kobe City



# Seascape Painting 海の絵画

## 個展 One Man Exhibition

2005.05 MG Gallery Kobe City Japan

2005.09 CAP House Galleries Kobe City Japan

## グループ展 Group Exhibition

初来日 1994.10 東京都美術館「国際美術展」に主要作品 出展 (第20回特別 記念国際美術展)

## 賞、授与など Award

1995.07 第27回第三文明展 奨励賞受賞大沼映夫氏の推薦をいただいて

(審査員・東京芸術大学芸術学部長・洋画家)

1995.07 同第三文明展イメージポスターに作品が採用される

1995.09 原禮之助博士から推薦文「世界の人々に幸福を」をいただく

1995.09 信濃美術館「日本水彩画会県展」入選

1995.10 主要作品6枚が東京国際友好会館に常設展示にさせていただく (6枚シリーズ)

1995.12 英国大使館文化担当 部ブリティッシュ・カウンシルより個展開催について'後援'承認される

1996.09 信濃美術館「日本水彩画会長野支部展」入選

1997 美術年鑑に現代水彩画家として掲載される

1997 大阪府Oasis97国際展に招待出品

1997.08 第29回第三文明展 入選 (富士美術館・東京都美術館)

1997.10 主要作品が東京国際友好会館に常設展示にさせていただく (絹布2m×2m)

1997.10 研究費をDr. Daisaku Ikeda より授与される

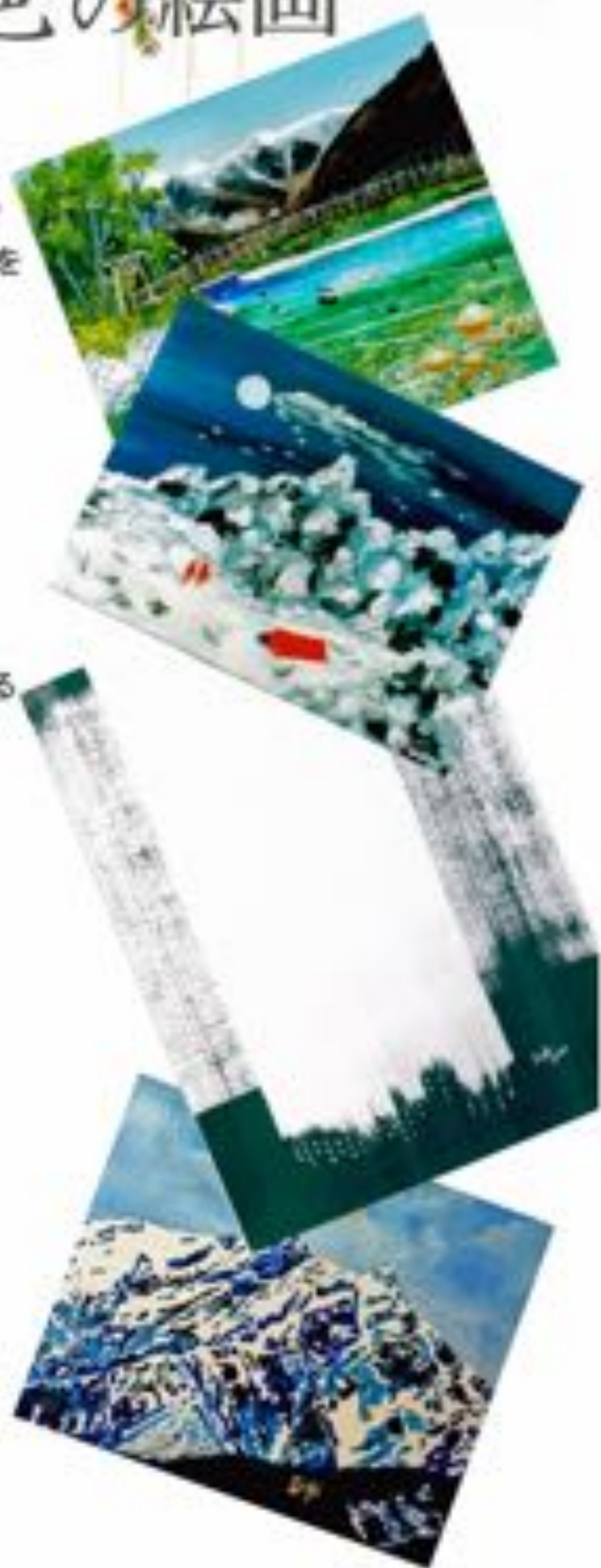
# Landscape Painting 景色の絵画

## 賞、授与など Award

- 1998 英国祭'98公式イベントとして参加することについて英国首相、在日英国大使より 奨励のレターを受けとる
- 1998.2.6 英国アン女王御出席、英国大使館主催レセプションに招待を受ける
- 1998 原禮之助博士から推薦文「安らぎと平和そして希望・ローレンツ・ジーチ氏の芸術」をいただく
- 1998.9 信州新町美術館に主要作品所蔵となる
- 2000 新日本美術院（新院展）より会員の推薦を受ける
- 2000 インターネット上での入選登録されたタイトル
  - ・ World Artist Directory
  - ・ Professor Seeds
  - ・ Phenomenal Men of the Art
- 2000.6 原禮之助博士から推薦文「ローレンツ・ジーチ氏の愛の芸術」をいただく
- 2001.3 「日本の美」シリーズ'さくら'に作品が掲載される (p464作品,p555略歴)
- 2001.11 第33回新院展にて「東美賞」受賞
- 2002.5 日本永住許可取得

## 研究 Study

- 1995-2000 日本画東山魁夷先生
- 1998 奨励の手紙を拝受



# Abstract Painting

# 抽象画

## メディア Media

### 雑誌

1995 グラフSGIより取材「アルプスの美を 世界市民に届けたい」世界128カ国へ  
ギャラリー、月刊神戸っ子

### TV

1996 長野朝日放送テレビで「信州の自然を描く 英国人画家」放送される  
SBC, NHK, NBS, ABN  
よりテレビ取材を受ける

### 新聞

信濃毎日新聞、産経新聞、長野市民新聞、長野県国際交流  
アンビニュース、東京新美術新聞、週刊長野、  
上越タイムス、大糸タイムス、須坂新聞  
朝日新聞、毎日新聞、神戸新聞、産経新聞  
FM長野 ゲスト出演

### 芸術論講演 Lecture

1996 信州豊南女子短期大学「The Purpose of Art」  
(学生・一般市民対象)

### 作品コレクション Collections

公共、個人のコレクション  
英国、フランス、イタリア、オランダ、ドイツ、カナダ、  
アメリカ合衆国、メキシコ  
オーストラリア、日本

# トラウマ癒やすアート



ビートルズの歌と「不思議の国のアリス」の世界が合体した作品「万葉鏡の目」の前で＝神戸市中央区山本通

## 英国人画家、神戸で個展

神戸在住の英国人画家、拠点としていた。

ブライアン・ウィッチ・ロレンソンが、アトリエを構える旧神戸移住センター内のアート施設「CAP HOUSE」で、西が、神戸では「P HOUSE」で、六点多の作品を鑑めた。抽象的な色と形を調っている。

一九五三年生まれ。古くから、自分のライフスタイルデザインを大学で学んだが、本格的な画家活動は、日本人女性と結婚して、一九九四年から、三年前、長野県の山村から神戸に移るまで、

「一生は花」を作った見せたりもする。「米国の影響で世界中がマクドナルド化しているが、日本文化の精神は素晴らしい」と、伝統文化を現代アートに「翻訳」する役割を

の絵の具のチューブで「一生は花」を作った見せたりもする。「米国の影響で世界中がマクドナルド化しているが、日本文化の精神は素晴らしい」と、伝統文化を現代アートに「翻訳」する役割を

も買っている。「絵画の世界の九割は絵の中にある。あとの一割は見る人が作る」

そう語る不思議の国の作家、ローレンソンが今回、神戸に到着したのは震災の

被災者の存在だとして、

自身も九二年にロンドンでビル倒壊事故に遭遇し、九四年に一生を捧げた。今も神戸に暮らすなど、後進者に伝えている。

「アートにはトラウマを癒やす力がある。私の作品を通して、神戸の人にも気持を癒やす感じさせてあげたい」

三上真美恵

五百まで、火曜休館。

〒650-0001 神戸市中央区山本通

078-





### 故郷リバプール 身近に感じる港町

ローレンツさん、信州から移住、初個展

ローレンツさんは、信州から移住して、神戸に在住している。信州の故郷、リバプールに、身近に感じる港町がある。ローレンツさんは、信州の故郷、リバプールに、身近に感じる港町がある。ローレンツさんは、信州の故郷、リバプールに、身近に感じる港町がある。

# 風景画家 神戸に恋

ローレンツさんは、信州から移住して、神戸に在住している。信州の故郷、リバプールに、身近に感じる港町がある。ローレンツさんは、信州の故郷、リバプールに、身近に感じる港町がある。



©朝日新聞社 2003年  
発行所 大阪市北区中之島3丁目  
2番4号 〒530-8211  
朝日新聞大阪本社  
電話 06-6231-0131

## ローレンツさん 信州から移住、初個展



ローレンツさんの作品「神戸の春」

ローレンツさんは、信州から移住して、神戸に在住している。信州の故郷、リバプールに、身近に感じる港町がある。ローレンツさんは、信州の故郷、リバプールに、身近に感じる港町がある。

画家は空間と情緒する。何のために、いやむしろ人間が自分の手で風景を描けると分かったときから、つまりその能力に気づいたときから、この画のような表現に取リつかれたのではなかろうか。そして実際にこの困難な時に成功するのである。神戸の光に引かれ、ここで才能の発揮を聞いたブライアン・リーチ・ローレンツの力強い作品「神戸の春」の舞台がそこである。

## 東西の美が呼応

# 空間と闘う画家

ジーチ展

美術

2003.6.11

大きな羊毛のようなもので描かれたアクリル絵の具がザツと降り下ろされている。その黒々とした落下の上に再び大胆に強い白。画家が制作に費やす行為は、たった二層。明、だがそのつかの間の動きで揺れるこの空間の柱が、



ブライアン・リーチ・ローレンツ 「魂2」

魂2は、魂2は魂2を魂2したのではない。魂2は魂2になったのだ。魂2にズバツと切り込んだとき、魂2は恐ろしく心で沈黙の叫びをあげたろうが、私たちはそれを涙水のとどろきで聴くのである。この「魂2」の奇蹟を見れば、彼がなぜ日本に身を置いて制作するか、なぜ東山魁夷を敬愛するかが理解できる。

信州リバプール（リバプール）の美術館で、ローレンツの作品が展示されている。この展示は、ローレンツの作品が、信州の故郷、リバプールに、身近に感じる港町がある。

水曜日 (日刊)

# 神戸新聞

発行所  
神戸新聞社  
神戸市中央区東川崎町  
1-5-7

## トラウマ癒やすアート



ビートルズの歌と「不思議の国のアリス」の世界が合体した作品「万華鏡の扉」の前で(神戸市中央区山本通)

## 英国人画家、神戸で個展

神戸在住の英国人画家、ロニー・マクドナルド・リーチ・ローレンスが、マドリエをテーマとした作品を、神戸市中央区の「アートセンター」で展示している。ローレンスは、マドリエをテーマとした作品を、神戸市中央区の「アートセンター」で展示している。ローレンスは、マドリエをテーマとした作品を、神戸市中央区の「アートセンター」で展示している。

の絵の具のチューブで「生け花」を作って見せた「ロニー」も、この展覧会を通じて、世界がマクドナルド化しているが、日本文化の精神は素晴らしい」と、伝統文化を現代アートに「翻訳」する役割を担っている。

「絵画の世界の九割は絵の具にある。あとの割は見る人が作る」

その語る不思議の国の住人、ローレンスが表現的に意識したのは震災の被災者の存在だという。自身も去年にロンドンで起こった暴動事件に遭遇して、この展覧会に「生け花」のモチーフを添えた。

「アートにはトラウマを癒やす力がある。私の作品を通して、神戸の人にも必要の表現を感じ取ってほしい」

(神戸市中央区)

○

五福通、火曜休館

078-800-0000

→



British Embassy  
Tokyo

From The Ambassador

平成 10 年 8 月 17 日

英国祭 UK98 に寄せて  
AMBASSADOR'S MESSAGE

日本では英国というと歴史・伝統・古き良きライフスタイルで知られており、私どももこれを誇りとしています。しかし英国にはそうした伝統的な国のイメージ以上のものが溢かに数多くあります。今日の英国と英国人には、創造性と革新性、そして大いなるダイナミズムというものがあがり、伝統的な強さと価値観を保ちながらも、常に新しいものに挑戦しようとする意欲に満ちあふれています。

英国祭 UK 98 は、古典的な美術から現代文化とライフスタイル、そして科学技術から日英間の車の機交流にいたるまで、今日の英国が誇る多様性をお見せする格好の機会となるものです。英国祭 UK 98 は皆様「知らなかった英国」を紹介し、きっとお楽しみ頂けるものと確信しています。

英国の誇る偉大な芸術文化の影響を受け、培ったユニークな創造性と色彩感覚により、ブライアン・ジーチ・ロレンツは英国で習得した古典的水彩技法をベースにチャレンジ精神にて、日本アルプスの四季を体験しながら 4 年間、日本の心そして信州の美を追求してきました。今回はそのベストを英国祭イベント展としてお見せします。この「ブライアン・ジーチ・ロレンツ展 ― 信州の美」を通してきっとご満足と幸福感を味わっていただけるものと確信します。

イベントのご成功をお祈り申し上げます。

駐日英国大使

デー・デーヴィッド・ライト KCMG LVO



## お祝い

兵庫県 神戸市 中央区 山本通 1-7-17  
ギャラリー北野坂

Classical Painting,  
To-day, Tomorrow, Forever  
Brian Zichi Lorentz展 御中

Classical Painting, To-day, Tomorrow, Forever Brian Zichi Lorentz展が 神戸ではじめて開催されますことを心から歓迎しますとともにお祝い申し上げます。西洋と東洋が融合したすばらしい芸術作品の数々が 私たちに深い感動と大きな喜びをもたらしてくれるでしょう。展覧会のご成功をお祈りしますとともに、世界市民としてのローレンツさんの今後ますますのご活躍を期待しています。

兵庫県知事 井戸 敏三

## Art is a Journey, not a Destination



ブライアン・ジーチ・ローレンツ展オープニング式 祝辞  
平成15年4月3日（火）18:30 ギャラリー北野坂

このたび、ブライアン・ジーチ・ローレンツさんの個展が、  
ここギャラリー北野坂において開催されますことを、  
大変喜ばしく思います。

ロンドンを拠点に欧州で創作活動を展開されていた  
ローレンツさんは、ご夫人の故郷である長野県に移り住まれ、  
美しい自然の四季を繰り返し過ごされました。  
約8年、長野県に住まれたローレンツさんが、  
ここ神戸にお越しになったのは、故郷であるリバプールを  
身近に感じることができるとお聞きしております。  
神戸はローレンツさんの故郷リバプールと同じ港町であり、  
ここ神戸に長い間求めていたものを見つけることができたとおっ  
しゃっていただきました。  
それほどまでに神戸を愛していただいているローレンツさんの  
思いに、神戸市民を代表して心から感謝申し上げます。

今回の個展では須磨の桜や、  
淡路島を望む海辺など生き生きとした神戸の風景を描かれた、約  
50点もの作品が披露されると伺っており、  
非常に楽しみにしております。

あの阪神・淡路大震災から8年余りが過ぎました。この間、  
私たちは苦しみ乗り越えて、  
復興に向けて懸命の努力を重ねてまいりました。こうしたなか、  
本展を開催していただくことは、  
市民に大きな夢と感動を与えられるものであり、  
ローレンツさんの神戸に対する愛情は、市民にとって  
大きな励ましとなり、勇気となるものです。  
そして本展を通じ、素晴らしい作品の数々に触れることにより、  
ローレンツさんの心の豊かさを感じることができるものと  
期待しております。

最後になりましたが、ひとりでも多くの皆様へ、

この展覧会をご覧いただきますことを祈念いたしますとともに、  
ローレンツさんの今後ますますのご活躍を期待いたしまして、  
私の挨拶とさせていただきます。

Editor:Hatakeyama  
July 11 1997



株式会社 美術年鑑社

BIJUTSU-NENKANSHA Co., Ltd. 3-11KANDA-NISHIKICHO  
CHIYODA-KU, TOKYO 101 JAPAN  
PHONE 03-3293-7481 / FAX 03-3295-1896

今日は雨あまりの暑さで、梅雨空が曇りか  
う日は梅雨空が曇りか。Photo magazine  
いかにあつた。Photo magazine  
な資料とお手紙をありがとうございました。  
ジーン先生は、お返事をありがとうございます。  
できとも嬉しく思っています。Photo magazine  
に少しだけでもお返事をしたいと思います。Photo magazine  
も目を導くこともありました。Photo magazine  
殊にビネオは先生の現在の状況を知ることが  
加えて有難く思っています。先生は、Photo magazine  
リ、何かと色紙の画が、Photo magazine



株式会社 美術年鑑社

BEJUTSU-NENKANSHA Co., Ltd. 3-15 KANDA NISHIKICHO,  
CHIYODA-KU, TOKYO 100 JAPAN  
PHONE 03-3293-7451 / FAX 03-3293-1996

独自のものがあーります。また空間のメリカ  
も面白く表現の難かしい空は見事です。  
根底に人間に対する信頼と愛があーります。テリ  
ケートな表現は日本人以上の優しさで溢れて  
おります。ありがとうございます。ただ  
海外にお出かかになった様子ですが、  
いまでもいい刺激になってるようですね。

ビデオ拜見させて頂きありがとうございます。

ご返却はし上ります。ご査収下さいます。

またのお会いさせて頂く折もあると存じます。  
それまでお元気です。ご活躍下さいます。

97年  
白田山先生  
美術年鑑社

奥  
様



長野 村上水内介  
 小川村 小根山 エミシケ川  
 ブライアン・ジー・チ・ロレンツ 様  
 ファー

拜復  
 先般は公平紙と共に此の如き文章  
 貴誌にもご用ひいただき誠に  
 誠に有難うござります  
 半々に打ち合わせも美事に思ひ  
 ながら 東山は、今とこうせん 休詞と  
 お願い、ふくや、と 直接お返事も  
 できません  
 今更なり私が代わ、りか書  
 けておあげ、る許し致します  
 ビヤオと 仲よし、と おいぶん 精力的に  
 各地の旅行、これより、凡果と、その色調  
 と 行方、又、技法、で、お茶に、キ、て、裁、こ、み  
 こ、と、感謝、し、つ、つ、行、と、さ、て、裁、こ、み、り  
 刻々と変化、する、自然、な、柔、暖、い、こ、ま、な  
 強い印象、と、な、り、て、任、り、こ、ま、り、と、感、心

東京七五五製

十景森市川市中山一十七一三  
 東山 魁 内

2.  
 此れから、も、英、国、と、日、本、と、の、美、術、の、交、換、の  
 橋、と、い、う、は、思、い、は、た、ま、り、と、い、ふ、も、た、り、と、い、ふ、も、た、り  
 とも、な、り  
 東山、の、お、は、い、と、い、ふ、も、た、り、と、い、ふ、も、た、り  
 と、申、し、ま、さ、る、も、た、り  
 お、い、は、い、と、い、ふ、も、た、り、と、い、ふ、も、た、り  
 今、年、も、お、い、は、い、と、い、ふ、も、た、り、と、い、ふ、も、た、り  
 致、し、ま、さ、る、も、た、り  
 東山  
 内

東京七五五製

# UK festival 98

1998年 英国がやってくる。



*In the presence of HRH the Princess Royal,  
President of the British Olympic Association  
on the occasion of the 18th Olympic Winter Games*

*Her Britannic Majesty's Ambassador, Sir David Wright  
and the British Minister for Sport, Mr Tony Banks, MP  
request the pleasure of your company at a reception  
on Friday 6 February at 6.30 pm  
at Chikuma no ma  
the Metropolitan Hotel Nagano*

*Reply by enclosed card  
or telephone (03) 5211 1273*



# 第27回 大正文明展



## 東京展

1995年8月22日火-8月30日水

午前9時-午後5時(入場は午後4時まで、最終日は午後7時まで)

東京都美術館 上野公園内〒100-3023 03-3822-0001

## 静岡展

「しずおか文化の歴史館」参加

1995年9月3日日-9月24日日

午前9時30分-午後5時(入場は午後3時30分まで) 河津洋館 5月10日(土) 4月23日(土) 4月23日(土) 4月23日(土)

富士美術館 静岡市富士宮市上野1247 〒414-56-2102

主催・実行委員会 実行委員会 協賛・監修 監修 協賛

制作委員会 実行委員会 フォトネットワーク

大塚博・大塚博(200円) 大塚博(400円) 大塚博(600円) 大塚博(800円) 大塚博(1000円)



The  
27th  
Daisan  
Bunmei  
Art Exhibition



## 大沼 映夫

本年より第三文明展の審査に参加した。

日本画・洋画・彫刻・工芸・書が5部門を一堂に会しての審査は初めての経験である。最初少々戸惑いはあったが、新鮮な気持ちで作品を選考することができた。

第三文明賞に選ばれた仲安銀蔵「作品『宙』その2」は、重厚で迫力のある強い作品だ。全体の暗い色彩は、静寂な宇宙の広さと、未知なる世界の不安感を表現するには極めて効果的である。確かな表現力は高く評価出来ると思う。

潮賞の足利桂子「風景・A」。白を基調とした画面に拡がりのある構成は外部に拡散され、作者の心の微妙な揺らぎをも感じとれる巧みな線描により清楚で叙情豊かな作品を創りだした。前記作品に優るとも劣らない仕事だと思った。

奨励賞の名村仁「復活のメロディーを奏でる人」は超現実的な厚化粧の人物が舞台の中で身振りよろしく奏でる奇妙な仕事で、近年多くの公募展で見られる傾向の作品だ。力量のある人なので、事物の本質や我々人間の実体を透視する目を持てば、かなりの仕事が出来るといった。

奨励賞のブライアン・ジーチ・ロレンツ「日蓮物語 1～6」は物語性の意図が明快に造形化され、静かで暖かく詩情あふれる仕事で6点それぞれ魅力があり引きつけられた。



奨励賞 (洋画) 日蓮物語 1~6  
 ブライアン・ジーチ・ロレンツ 各90.5×70



## *Art is a Journey, not a Destination*

### ジーチ・ローレンツ氏の愛の芸術

原 禮之助

セイコーインスツルメンツ（株）

元 社長 顧問

最近の技術の進歩はめざましく、その恩恵により社会は益々便利となった。その反面、このような“技術主導型の社会”は、人々の生活を多忙にし、人間的なつきあいはうすれストレスに悩む人は多い、ストレスの結果、道義と倫理の荒廃をもたらしている。

現代社会において必要なこと、それは“愛の精神”と“他人に対する尊敬の念”と共に“やすらぎ”と“平和”といえよう。

ジーチ・ローレンツ氏の芸術は、人々の心を豊かにしてくれる。私が同氏の芸術をおすすめする理由である。

ローレンツ氏の芸術には“西欧と東洋の融合”という他の人々にはみられない特長がみられる。このため文化のちがひ、国境をこえて同氏の芸術は広く世界の人々に愛されている。

#### 国際的なその家系

世界で万人に愛されるジーチ・ローレンツ氏の芸術、これを理解するためには同氏が育った環境と、自然と人間に対する同氏の深い愛情をしることが必要である。

ジーチ・ローレンツ氏の家系は欧州と米国。双方に源をもち“芸術と文化を愛する家風”をその特長とする。子供の頃の先生は父君であった。

同氏は東洋文化に深い興味を有し、東山魁夷はじめ多くの日本人芸術家の影響をその手帳だけでなく“感性”と“精神”双方においてうけている。

#### 新しい創造性に向けて

ジーチ・ローレンツ氏はヨーロッパにおいてすでに確立した名声を有する芸術家であるが、数年前夫人の故郷長野に園をかまえて以来、次なる完成に向けて“新しいアイデア”や“こころみ”をとりいれ不断的努力を続けている。

ジーチ・ローレンツ氏は心のあたたかい、高い道徳を持つ人である。この人柄は同氏の芸術にもよくあらわれ、同氏は芸術を通し“自然の保護”と“世界の平和”への強いメッセージを発信しつづけている。喜久子夫人は同氏のよき理解者であり、ローレンツ夫妻は長い交友を持つことのできる数少ない友人と

*Art is a Journey, not a Destination*

いえる。

展示会場や同氏のアトリエで同氏の芸術にふれ、一人でも多くの人々が私共人生にとって一番大切なこと“心のゆたかさ”を味わられることを切望します。

東京大学卒業。ワシントン大学、ハーバード大学研究員

元 セイコー電子工業株式会社 社長（1987年～1993年）

現 セイコーインスツルメンツ株式会社 顧問

（1997年7月1日より社名を変更）

〔国内〕

社団法人 経済同友会 顧問

社団法人 日本原子力産業会議 理事

社団法人 日環基金 会長

社団法人 新世代研究所 理事長

日環協会 会長

〔海外〕

スウェーデン王立科学アカデミー 会員

ルイジアナ州立大学基礎科学諮問委員会委員

国連工業開発機関 アドバイザー





Award



Lotus Pond 2000. F60 Acrylic on silk.

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

2001

Shin Nihon Bijutsuin Award

<https://shininten.jp/>







在住外国人の

# 真の「国際 問われ



ブライアン・ジーチ・ロレンツ

## ■プロフィール

- 英国リバプール出身
- 長野に住んで17年の風景画家

私は46歳のイギリスの風景画家で、1995年から信州に住んでいます。私の妻のキコは小川村の出身です。私たちのアトリエは妻の画室で、長野市と白馬を結ぶオリンピッククロードにあります。

私たちが初めて長野を訪れたのは1994年の秋でした。私はすぐに、日本アルプスの自然と美しさに惹かれました。私は世界中の多くの国を訪れていますが、他国にはない信州独自の自然を感じました。また、イギリスでははっきり感じられない、日本の四季の変化も好きです。

私ははじめ、白馬から信州新町、長野へ向かうオリンピッククロードの絵を描こうと思っていました。この地域の開発されすぎることなく、極度の近代化もされずに残っている、自然と美を堪能できたのです。地元の多くの人にとっては、その土地はごく普通の土地にすぎませんが、日本のこの小さな場所には、素晴らしい風景画となるすべての題材がありました。美しい空、山、川と海、たくさんの美しい花、松の紅葉、そして冬の深く積もる真っ白な雪。1995年から、私は300点以上の絵を描きました。

絵を描くほかに、20回以上の個展を主に長野市や東京で開催しました。白馬から長野市に向けて、白馬、大町、美麻、小川、中島のすべての村でも、1度は個展を開いています。

今年の9月には、信州新聞美術館で1ヶ月間個展を開くことができました。個展は大成功に終わり、この美術館の通常の入館者数の3倍の人が訪れました。この個展は、私がオフィシャルアーティストにもなっている英国版「K」98の一環として開かれました。個展の開催セレモニーでは信州新聞の中村町長がごあいさつし、東京のイギリス大使館からの手紙を、長野国際美術クラブの小出氏が読みました。美術館長さんは、私の絵を大変よく理解し、多大なる支援・応援をしてくださいました。

日本での生活の中で好きな事はたくさんありますが、好きではない事も思わなければ正解ではないでしょう。

私のように外から来た人間が日本の小さな村で生活することはとても大変で難しいことです。というのも、村の生活は非常に長い間、変化がなく、誰もこのような外部者とどう接していいかわからないからです。

村に住むために、まず私は10年以上遊牧民だった妻の画家を立て直すなければならませんでした。それは伝統的な土と木でできた家です。私にとっては初めての経験でしたが、私はその伝統的な「自然の家」と、さまざまな伝統を感じる手法が好きです。しかしそれらは村では失われつつあるようです。

# 「化」が る信州



ひとたび村の人が私のことを知り、少し理解するようになると、私は、親切で温かく国民的のよい信州の人々にたくさん会うようになりました。外見は保守的ですが、本気は心優しい親切な人たちなのです。日本の生活の中で理解することが難しい概念のひとつは、「本音と建前」という二元構造です。私は建前を避け本音を見極めようとしていますが、この部分はこれからもずっと、はっきりとはわかりません。

また、残念なことは信州は40の美術館に恵まれています。そこに学校に通う子どもたちがいないことです。芸術は生活の中で最も大切な部分で、子どもの頃から学び始めなければなりません。美術館は学ぶ場所なのです。

最後に「国際化」について話したいと思います。多分オリンピック大会までは、この言葉の真の意味が理解されないうまま、いつも使われていました。

オリンピック大会の開催中、とても多くの信州の人々が世界に対し心を開きましたが、オリンピックが終わってしまった今、そのような感情はどこかに行ってしまったようです。

「国際化」とは他の文化を学び、文化間の違いを尊重することです。りんごはりんご、橘は橘だと受け入れることなのです！信州は真に国際化する素晴らしい機会を与えられました。オリンピックは終わったかもしれませんが、本物の精神は永遠に継承されなければならないのです。

Shinshu Shinmachi Art Museum  
Nagano



Exhibition September 1998





Shinshu River acrylic on silk 525 1999

平成11年2月6日

チリアン・ゴーチ・コレント 様

巨州郡町美術部長 坂戸 隆



近年所蔵作品展の開催について（ご案内）

拝啓 時下ますますご清栄のことと拝察申しあげます。

日頃、美術館の活動には感謝の気持ちで配慮を賜り厚く感謝申し上げます。

また作品寄贈の所には大変お世話になり誠にありがとうございました。

今まで企画に前って展示をさせて頂きましたが、今回は近年に寄贈していただいた作品の中から40点を集めて2月17日(水)～4月11日(日)の期間「近年所蔵作品展」として開催いたします。

つきましては、喜んでご案内申し上げますので期間中ご高覧くだされば幸甚に存じます。

また、所収ですがポスター・招待券を同封いたしました。お誘い合ってお出掛けくだされば幸いです。

今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

敬 具



**Brian Zichi Lorentz Art Exhibition**  
1998. 9.2 (Wed) — 9.27 (Sun)  
**Shinshu Shinmachi Museum**



Evening S25 Acrylic on Silk Fabrick

寄贈作品による四十点余を一同に展示

出品作家

日本画

千塚寛芳

洋画

有島生馬

小林昭

小松洋子

関晴風

中川力

田坂乾

田坂ゆたか

藤江幾太郎

ブライアン・ジーナ・ロレンツ

横山弘三

米津福祐

山本備村

彫刻

三澤盛司

書

青山杉雨

一色白泉

# 近年所蔵 作品展

会期 一九九九年二月十七日(水)～四月十一日(日)

主催

信州新町美術館

協賛

信州新町美術館

信州新町美術館

午前九時～午後五時(入館は四時三十分まで)

月曜日、祝祭日の翌日、三月十六日は観覧料を換えるための休館

大人五百円、小学生二百五十円(小学生以上二人以上) 化石博物館と共通



【兵庫編】

KOBE、水平線の見える街で

ブライアン・ジーチ・ローレンツ 画家

イギリスの港町リバプール。ザ・ビートルズを生んだこの地が私の生まれ故郷だ。家は港のすぐ近くで、毎日海を見て育った。四歳の頃、船体に「YOKOHAMA」と書かれた船を見て以来、日本に憧れ、日本の切手を集めては、いつか行きたいと遠い国を想った。

四十二歳にしてようやく少年の日の夢が叶い、妻の故郷の信州に移り住んだ。北アルプスの麓のその村は、山が美しく、空気は澄みわたり、夜空は星が降るようだった。この地の自然を愛した東山魁夷という素晴らしい日本画家を知ることもできた。ただ四方を山に囲まれた信州には、海がない。「水平線の見える街で暮らしたい」という想いは、次第に抑えがたくなった。

神戸を選んだのは、港町という理由だが、実はそれ以外はほとんど何も知らないまま、衝動的に移住を決めた。でも実際に住んでみて、自分でも賢い決断だったことはすぐにわかった。

第一に神戸は、外国人には非常に住みやすい。港町としての歴史が長いせいか、みんな外国人慣れしているから、自然に街にとけ込める。食べ物もとても美味しい。海が近いから、ついさっきまでダンスをしていたような新鮮な魚が豊富なのも嬉しい。どこへでも「歩いていける」ことも大きな魅力。家から二十分も歩けば海（ハーバーランド）に着き、逆に向かえば同じく二十分で山があり、滝があり、温泉もある。街なかに行くなら北野の異人館、日本庭園が素晴らしい相楽園。特に私の春のお奨めは桜が満開の会下山公園——歩いて絵を描きに行ける大好きな場所を挙げたらキリがないほどだ。

特集 ● 「商談」基軸を探る

## 世界的な経済危機のなかで— 日本の進路と世界の持続的発展を考える

佐藤啓志 / 工藤拓哉 / 藤沢久美

# KOBE、

# 水平線の見える街で

ブライアン・ジーチ・ローレンツ 画家

イギリスの港町リバプール、ザ・ビートルズを生んだこの地が私の生まれ故郷だ。家は港のすぐ近くで、毎日海を見て育った。四歳の頃、船体に「YOKOHAMA」と書かれた船を見て以来、日本に憧れ、日本の切手を集めては、いつか行きたいと遠い国を想った。

四十二歳にしてようやく少年の日の夢が叶い、妻の故郷の信州に移り住んだ。北アルプスの麓のその村は、山が美しく、空気は澄みわたり、夜空は星が降るようだった。この地の自然を愛した東山魁夷という素晴らしい日本画家を知ることもできた。ただ四方を山に囲まれた信州には、海がない。「水平線の見える街で暮らしたい」という想いは、次第に抑えがたくなった。

神戸を選んだのは、港町という理由だが、実はそれ以外はほとんど何も知らないまま、衝動的に移住を決めた。でも実際に住んでみて、自分でも賢い決断だったことはすぐにわかった。

第一に神戸は、外国人には非常に住みやすい。港町としての歴史が長いせいか、みんな外国人慣れしているから、自然に街に馴染める。食べ物もとても美味しい。海が近いから、ついさっきまでダンスをしていたような新鮮な魚が豊富なのも嬉しい。"It's a small step

いいていける」ことも大きな魅力。家から二十分も歩けば海（ハーバーランド）に着き、港に向かえば同じく二十分で山があり、海があり、温泉もある。街なかに行くなら北野の異人館、日本庭園が素晴らしい相楽園。特に私の春のお奨めは桜が満開の倉下山公園——歩いて絵を描きに行ける大好きな場所を挙げたらキリがないほどだ。そして何より神戸には「水平線」がある。山に囲まれた信州と異なり、海に臨む神戸は「空」が大きいのだ。気持ちごとんとん自由に開放的になる。海の香りに包まれ波の音を聴き砂浜を歩く。道磨や舞子の浜に座り、沖を眺めれば、故郷のリバプールを身近に感じる。だから今では「お生まれは？」と聞かれると、「淡路島のちよつと向こうです」と答えるようになった。

初めて神戸に来た日に乗ったタクシーの運転手が、こんなことを言っていた。「神戸には一つ問題がある。一度来たら帰りたくなくなるんや」と、彼の言うとおりだった。水平線が見え、海も山も近い神戸で、私もいつまでも美しい自然や風景を描き続けたい。☺

Brian Zach Lorenz 画家  
1972年英国リバプール生まれ。彫刻家を父に、大学では古典的な水彩技法とオキスマイル・デザインを専攻。ロンドンを拠点に欧州で都市風景を描き、デパートやアート・イベント美術館などで個展、ホテルや公衆空間など受託。1994年米国、2002年から神戸在住。アートへの情を多用し、なめらかな質感を兼ね備えた画風が特徴。日本画に魅せられて筆始め開始。  
<http://www.zachlorenz.com/>  
<http://homepage.mac.com/zachlorenz/japanese/>



Visitor's

か	ん	さ	い
			さ
			ん
			か



spring visitors



spring visitors



spring visitors

Brian Zichi Lowantz 画家

1952年英国ロンドン生まれ。彫刻家を父に、  
大学では古典的な水彩技法とテキスタイルデザインを専攻。ロンドンを拠点に欧州で創作活動を展開。  
ヴィクトリア＆アルバート美術館などで個展展、  
エジンバラ公爵賞など受賞。1994年来日、2002  
年から神戸在住。アクリル絵の具を多用し、なめら  
かさの質感を兼ね備えた画風が特徴。日本画に  
魅せられて墨絵も描く。

<http://www.zichibart.com/>

<http://homepage.mac.com/zichi/custom/japanese/>



旅人のアルプスの美を「世界市民」に届けたい  
 旅人のアルプスの美を「世界市民」に届けたい



旅人の主人さんと、子供に手を添えながら  
旅人の主人さんと、子供に手を添えながら  
with Akiko at his home gallery



旅人を見て「世界がこんなに美しいとは思わなかった」と村の人がいつてくれたよ。  
"A villager commented on my pictures. 'I didn't realize how beautiful nature is.'"

旅人  
アルプスの美を「世界市民」に届けたい

とアルプスを使いたいのかと聞くと、旅人は、昔のヨーロッパの人だ。

——なぜイギリスから来たのか。  
「ここはイギリス人の故郷。少壮期に心を育いた。本も手紙も、山道では羊の、道も来ない。絵を早くには描いた。たまに人が来る。世界をくぐるよ。」

——絵で表現したいものは、  
「アルプスに暮らす生活の美しさ。それを描いてもらいたくてことごとく来た。絵の美しさで来た。おもしろい。」

——ええ、まあ、それにしてもかなり回遊ですがー。

「住は日本にいると思っていない。ここも世界のあちこちです。30歳は政治家が選挙するもの。パスポートも人権をコントロールするもの。パスポートが本になってるのは見たことない。」

——旅人での旅のテーマが「世界市民よ、準備はいいかい」。ですが、「世界の人間への情の呼びかけ」。旅人には、人間という人間があるだけ。旅人も旅人も、旅は旅。ただ、住む場所や文化の違いでそれぞれの文化を、それが、それが、あり知ることになるなんて表現して。人間性、同じ文化だったら世界は混同なものになるじゃないか。違う文化をもちながら、人間として一つになることが可能だ。自分の旅が、世界市民を旅人になるれば、旅人だ。



Brian Doch Lorenz, painter

旅人を見て「世界がこんなに美しいとは思わなかった」と村の人がいつてくれたよ。  
"A villager commented on my pictures. 'I didn't realize how beautiful nature is.'"

日本の美Ⅱ  
さくら

監督 鈴木蓮



Sakura 2000. F80 acrylic on silk

Brian Zichi Lorentz

ブライアン・ジチ・ローレンツ 作家

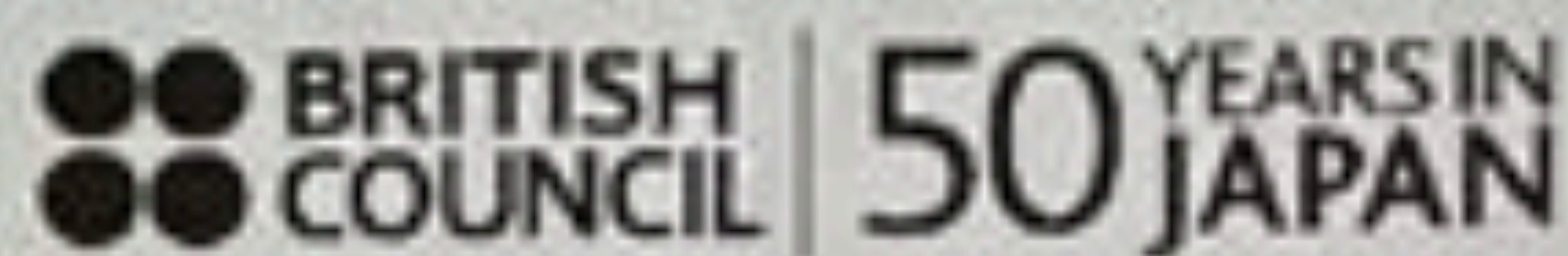


さくら讃歌

さくらの花びらが今年も咲いた  
 真実の友情の証のように  
 母がいて生命を授かった自分  
 父がいてターナーを発見した自分  
 ニッポンで東山魁夷を知った  
 ほのぼのと咲くさくら花  
 歴史を刻んだ幹の偉大さよ  
 花びらの愛しさよ  
 魅せられて 生命もえたつ

## ZICHI'S ATELIER KOBE CITY

Brian Zichi Lorentz  
ブライアン・ジーチ・ローレンツ  
舞来庵慈智路蓮津



In the presence of HM Consul-General,

Mr Neil Hook MVO and Mrs Pauline Hook

with great honour,

UK Artist, Brian Zichi Lorentz and Kikuko Lorentz,  
would like to request the pleasure of your company for a

Exhibition Private Preview

Tuesday 3rd June 2003

5pm - 8pm

at the

Gallery Kitanozaka.

The tape cut and opening will be performed

at 6:30pm

Please reply with your accompanying name by the 26th May

by letter or phone

3 June 2003

## BRIAN ZICHI LORENTZ EXHIBITION PRIVATE VIEWING

Minasama, konbanwa. Good evening everybody. I am Neil Hock, British Consul-General in Osaka.

皆様、こんばんは。ご紹介にあずかりました、英国総領事のニール・フックでございます。今日は英国人アーティスト、Brian Zichi Lorentz の特別展覧会に出席でき、うれしく思っております。通常私ども英国総領事館は文化活動にあまり参加することはありません。日本でちょうど 50 年英国の文化と芸術を紹介するために活動を続けてきた British Council が今回もこの展覧会に後援しております。日本でこのように英国の芸術分野における創造性が脚光を浴びることができるのも、British Council の努力の賜物と言えるでしょう。

I am delighted and honoured to be here today at this private viewing of the work of British artist, Brian Zichi Lorentz. The British Consulate-General is not too often in cultural activities - the British Council, who are one of the supporters [koen] of this exhibition, fulfil this role and indeed have been promoting British arts and culture in Japan now for 50 years. I think it is fair to say that it is very much thanks to their efforts that British creativity in the arts is held in such regard in Japan today.

またロレンツ氏にとって励みとなる、この後援の多さから見ても、彼の活動に対する評価も明らかです。今日皆さんがご覧になっている作品についてあれこれ言うつもりはありません。芸術を鑑賞するということはとても個人的なものであり、ロレンツ氏も他の芸術家同様、芸術は万人の目を楽しませるものではないと思っておられることでしょう。しかし今日幸運なことに私達が目にすることのできたものは、技術的にもすばらしく、技能的にも目を引くもので、すばらしく感覚にうったえるものだと思わ



れるに違いありません。私にとってそれは卓越した芸術家の印であり、大変な努力なしでは達成し得ない妙技だとわかります。ですから今日彼の作品を見ることができ、とても嬉しく思っております。

This regard in which the work of Mr Lorentz is held is perhaps obvious from the range of support that is lined up to give him encouragement today. I am not going to attempt to describe or analyse the work that you see here on display. I believe that appreciation of art is a very personal matter and I am certain that Mr Lorentz, like other artists, will agree that art should not attempt to please every beholder. My views therefore may not amount to very much. But I am sure you will all agree that the work we are fortunate enough to see today is technically excellent, skilfully perceived and captured, and extraordinarily stimulating to the senses. For me those are the signs of a significant artist and I know that this virtuosity has not been achieved without hardship. I am grateful that I have had the privilege of viewing Brian Lorentz' art and have been allowed to participate in this ceremony today.

最後にもう一言付け加えたいと思います。今年は InnovationUK というキャンペーンが総領事館、大使館、British Council の共催で一年間行われます。これは日本の皆様の説明し、多くの場合は事実が明らかになる、ことを計画して行われるのですが、英国のすばらしい革新、発明、デザイン、創造性に焦点が当てられます。その多くは英国がこれまでおさめてきた成功の事例を広く宣伝することになりますが、例えばインターネットの World Wide Web、電卓、携帯電話技術、ホログラムの発明、あるいは DNA、オゾン層の発見や、クローン羊ドリーや、Dyson の掃除機やパイアグラ等、近代の生活に恩恵をもたらすものの開発などです。しかしながら芸術における創造性を多くに知っていただくことも主旨に給うことでしょう。ですから今日のこの展示会に参加し、ご挨拶できたことは二重の喜びです。ロレンツ氏の今後ますますのご成功をお祈りしております。

Finally, perhaps I could be allowed to add one further word. This year is the year of the campaign being run by the Consulate-General, the British Embassy in Tokyo, and the British Council throughout Japan, called innovationUK. The campaign is designed to explain, and to reveal in many cases, British excellence in innovation, invention, design and creativity. Much of the effort will be aimed at promoting British success in inventing the World Wide Web, pocket calculators, mobile telephone technology, holograms, and so on, or in such discoveries as DNA and the hole in the ozone layer, or in developing such boons to modern living as Dolly the cloned sheep, the Dyson vacuum cleaner or Viagra. But I think it is also appropriate to promote British creativity in the arts. I am therefore doubly pleased that I can read this message today, at the preview of one example of British artistic creativity. I wish Brian Lorentz every success with this exhibition and with the future.

ありがとうございました。



**BRITISH CONSULATE-GENERAL**

EPSON Osaka Building 19F  
3-5-1 Sakuro-machi, Chuo-ku  
Osaka 541-0059 JAPAN  
Tel.(06)8281-1616  
Fax.(06)8281-1731

**英国総領事館**

〒541-0059 大阪市中央区博労町三丁目五番一号  
エプソン大阪ビル 19階  
電話 (06) 8281-1616  
ファクス (06) 8281-1731



Kitanozaka Gallery 3rd-15th June 2003











Kaleidoscope Eyes acrylic on wood F100